

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

年収と労働生産性 (キーエンスのように)

日経ビジネス誌先週号を読んでいて思わず目をむいてしまった。「納得できる賃金」という特集記事の中に、「平均年収が1000万円以上の東証1、2部上場企業」28社がランキング順に表となっていたのだが、第1位がフジテレビジョンで、ライブドアに買収を仕掛けられたニッポン放送も14位に顔を出していたのだ。これを見てピンとくるものがあった。あの堀江さんが何故ニッポン放送に目をつけたのかが解ったような気がしたのだ。ちなみに、上位9社を転記した下表をじっくり見て欲しい。

| | 会社名 | 平均年収 | 平均年齢 |
|---|-----------------|-------|------|
| 1 | フジテレビジョン | 1,529 | 39.8 |
| 2 | メディアホールディング | 1,507 | 42.0 |
| 3 | 日本テレビ放送網 | 1,482 | 39.4 |
| 4 | TBS | 1,429 | 42.3 |
| 5 | ケネディ・ウィルソン・ジャパン | 1,383 | 39.0 |
| 6 | テレビ朝日 | 1,358 | 41.3 |
| 7 | 電通 | 1,316 | 39.6 |
| 8 | キーエンス | 1,223 | 31.8 |
| 9 | メディアホールディング | 1,219 | 48.0 |

(単位：年収は万円、年齢は歳)

「へーっ、凄い会社があるもんだ」と敬意を表したいところだが、私は素直になれなかった。日本を代表する優良企業であるトヨタやキャノン等が上位に名を連ねるのなら納得できるが、トップ9社の内上位4社はTV放送会社ではないか。TV東京も13位にその名を出し、民放5社は揃って高額給与の会社なのだ。何故、民放各社がこれだけの給料を払えるかは明白だ。勿論、支払能力のある優良企業であるからであるが、その高い支払能力のかなりの部分は法規制によって支えられていることは容易に推測できる。かつて大手銀行がそうであったように、民放各社も規制に護られることによって超過利潤を得ているのだ。そして超過利潤は社員にも高年収という形で恩恵をもたらしている。

堀江氏は民放会社に銀行と同じものを見た。この業界がちょっと改革するだけで大きな利益が得られる「宝の山」に見えた。資本のねじれを放置していたフジサンケイGはその格好のターゲット

だった。

有価証券報告書を覗くと、ライブドアの従業員の平均年収は約500万円程度である。若い社員が圧倒的に多いせいもあるだろうが、それにしてもレベル的にはフジTVやニッポン放送の半分以下とみて間違いない。その意味で、人件費支払前営業利益が大きな民放放送局は買収対象として魅力的だったのだ。

ところで、我が社の平均年収はどの位だろうかと計算したことがあるだろうか。高額年収企業をみた後で気が乗らないかもしれないが、しっかり把握しておくことが必要だ。計算式はいろいろあるだろうが、次のように計算すればよいと思う。まず、決算書より「役員報酬+給与手当+法定福利費+福利厚生費+退職掛金」を算出し(但し、製造業等は製造原価より上記に労務費を加算する)、この人件費総額を平均従業員数(パート社員は2名で1名でカウント)で除した数値が1人当たり平均年収となる。

こうして算出した我が社の平均年収は何に使ったらよいのだろうか。

一つは、同業他社や同業種平均との比較に使う。同じ粗利益を稼ぎ出す場合、人件費は総額では低い方が生産性は高いと云えるが、1人当たりでは多い方が望ましい。年収の高さは社員の意欲や熱意に直結しないが、不満足要因を解消する効果は大きい。

もう一つは、生産性の検討資料として使える。人件費が高いとか低いという話は、何に対して高く、そして何に対して低いのが問題となる。それは生産性に対してである。労働分配率(=1人当人件費÷1人当粗利益)や、その逆数である労働生産性(=1人当粗利益÷1人当人件費)で従業員の働き振りを測ることもできるし、単位時間(1分、1時間、1日)当たりの人件費も測定することができる。今、最も重要なのは労働生産性の向上だと思う。

話が滅裂してしまっただが、日本で最も生産性の高い会社は8位に顔を出しているキーエンスではないか。規制とか談合とかに関係なく高収益を確保しているキーエンスの決算は素晴らしい。中小企業一般からは遙か遠い会社であるが、この会社も昔は中小企業だった。一度、この会社の決算書を覗いてみて欲しい。

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2005.3.19(第453号)

TEL.0438-53-6092 FAX.0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp